

千々石ミゲル墓所推定地 第3次発掘調査 記者発表記録(その4)



ドローンより撮影した墓所一帯。中央下に発掘現場。右側は長崎本線（旧線）。手前が諫早側、奥が長崎側
画像提供：株式会社オリेंटアイエヌジー（旧社名：九州オリेंट測量設計株式会社）

【質疑応答2】 文中敬称略

■今回の発掘調査を終えて

Q：今回キリシタンとの関わりを示す可能性があるガラス片とかビーズ状の玉が出てきたということですが、これがミゲルとキリシタンを結びつけるものと言えるのかどうか…もちろんそれは今後の鑑定を踏まえてということになるのですが、その辺の位置づけはどう考えていますか。

A（大石）：基本的に千々石ミゲル清左衛門夫妻の墓所であるという情報をもっとも多く持っているのが墓碑です。この墓碑の研究からみると、ここはほぼ間違いなく千々石ミゲル清左衛門の墓所であると思われる。そこから遺構が見つかり、埋葬遺構まで出てきて骨まで出土し、さらにその副葬品が全てキリシタンのものであるとなると、当時の彼の信仰の性格がだいたいわかってくるのではないかと思います。

これまで千々石ミゲル清左衛門については、イエズス会側の記録では脱会し棄教までして、「枯れない

雑草」としての末路を辿ったということになるのですが、その人物像の変更を求められる遺構になるのではないかと思います。つまり彼は最後までキリスト教徒であり、イエズス会は脱会したが棄教はしていない可能性が出てきます。ただしこれはあくまでも私の個人的なコメントということでご理解いただきたいと思います。

Q：大石氏の中では、この墓所はもう千々石ミゲルの墓と思って間違いのないところまで来ているということですか。

A（大石）：そう思っています。千々石玄蕃允と（墓石の）後ろに刻まれています。実際に伊木力に関係するのは清左衛門夫妻しかありません。と同時に決定的なのは、この墓所に関わる可能性がある周辺の人物の没年や寺など全て調べ上げて、埋葬者として残るのは清左衛門夫妻だけです。その他の情報から見てもほぼ間違いのないと思います。

その後の研究で彼はイエズス会を脱会しているけれども、キリスト教は捨てていないという可能性が出てきました。今回それを証明するものが出ないだろうかという期待はありました。しかし実際それが出てみると逆に驚きを感じます。これは実行委員会の立場とは異なるのですが、今後の研究のひとつの在り方として、少なくともミゲルに対する人物像を研究する大きな材料を得たと思います。

Q：実行委員会として今回の発掘はミゲルの信仰や人物像などを研究する上での大きな材料となると考えられているのですか？

A（立石）：千々石ミゲルは、本当に歴史の謎とされてきた人物で、四百年間、闇の中に眠っていた人物です。それを10数年前に大石氏がここに眠っているのではないかという大変貴重な説を発表し、今回発掘にまでたどりつき、それを実証するような物的な証拠を発見できた可能性があります。だとすると、おそらく日本のキリスト教の歴史を書き換えないといけないし、世界の宗教史のなかでも非常に注目されるべき問題だと思います。安易に短絡させて考えることは許されませんが、そのような可能性が非常に高まったということは、この遺物を見る限り言えるのではないのでしょうか。これらについて今から正式に研究分析していきます。材質や形質などを専門家に鑑定してもらいますが、その中からさらに多くのことが明らかになって、大石氏が述べられたようなことが立証されるかどうか私は楽しみにしています。

今回の発掘調査には顧問という立場で関わられた浅田昌彦氏（千々石ミゲルのご子孫、旧大村藩城代家老ご子孫）が墓所と浅田家の所縁、そして発掘を決意した理由を述べられていますので、最後にご紹介したいと思います。

■浅田 昌彦 氏

実はこの墓所が明治20年に没した私の曾祖父名義で百数十年そのままになっていたという事実を知ったのが、十数年前大石氏がこの墓所を千々石ミゲルの墓石発見ということで発表されたときです。それまでこの墓所が我が家の先祖の墓だということを含めて存じあげませんでした。そのあと年に1回、2回とこちらに通い、地元の方や専門家の方にお話しを伺って行きました。各研究会では、“どなたが眠っているお墓なのかをきちっと探り当てましょう、一緒に協力していきましょう”という非常に温かい声を

かけていただき、多くの励ましとご支援をいただきました。

そこで大石氏からご連絡があつて約十年を経た 2014 年、第 1 回目の発掘調査をおこないました。それから 2 年後 2016 年 9 月に 2 回目を実施しました。これらは皆さんのご支援なしにはなし得なかったことなのですが、発掘費用、工程などを含めて私個人の立場でやらせていただきましたので、どうしても限界がありました。今回はその 2 回にご協力いただいた方々、あるいはそれ以降にご協力を申し出ていただいた方々からのご支援をいただき、実行委員会による発掘調査という形態で 8 月 20 日の発掘開始を迎えることができました。あとはあつという間でした。過去の 2 回でなし得なかった墓壇の発見、埋葬施設の掘り起こし、そしてそれを開けると埋葬人物の遺骨と副葬品が見つかりました。



我が家に伝わっているこの墓所についての記録では、「墓所伊木力、俗名知らず、何某のことかも知らず…墓所は伊木力、名前はわからず、どちらの家の人間ともわからない」けれども、浅田家の先祖として、きちっと代々祀るようにと伝えられていました。しかし誰の墓かわからないまま置いておくということについて、我が家が代々祀って来た墓であることがわかった以上、後世に繋げていくために私の代でなんとか明らかにしたいという思いで進めました。

結果としてこれだけ多くの方のご支援を得てここまで来ることができました。まだ埋葬者の特定に至ったわけではないのですが、あとは専門の方々、研究者の方々の力を借りて、更に次のステップに進みたいと思っています。まだまだこの墓所についての研究調査は続きます。今後も各方面でご支援をいただければと思います。



発掘調査終了後に復元された墓所（9月19日）

今回の報告は以上ですが、会見で立石氏が述べられているように、今後の研究結果についてはまたこの場でご報告したいと考えています。